

# 巣立っていく 高校生の思い

市内で高校生活を過ごしてきた高校生たちに、進路選択で感じたことや将来の夢を聞きました。



あるときは黒磯南高校の生徒、またあるときはダンサーとして活動している4人組「Yippe」。2つの顔を持つ彼女たちは「働いて経済的に自立し、大好きなダンスを続けていきたい」という強い思いを持ち、卒業後すぐの就職を希望。学校を通じて就職活動をした結果、3年生のうち2人は県外、1人は市内企業への就職が内定しました。後に続く2年生1人は、実家を手伝うことも視

このまちから世界中に  
笑顔届けたい

学んだことを  
このまちで生かしたい

大学を卒業後、地元で働きたいと考えている黒磯高校3年生の2人。幼いころから教師を志していた平山さんは、中学時代の経験が大きな契機に。「グローバルコミュニケーション」で多くのALTと関わり、英語に親しめたのは、本市ならではの良い経験だったと思います」と当時のことを振り返ります。将来は「大好きな地元で、生徒に寄り添い、一人一人の個性を生かせる教師

野に、市内に残ろうと考えています。就職先は人それぞれに違っても、全員がこのまちで暮らし続け、このまちでダンスの練習に励みます。4人はこれまでも数々のダンス動画を自主制作し、韓国のアイドルグループ「TWICE」から直々に評価を受けたり、全国規模のコンテストで入賞したりと、輝かしい実績を残してきました。「ダンスを通して、このまちの人はもちろん、世界中に笑顔届けたいです」。そう明るく話す彼女たちの挑戦は、まだまだ始まったばかりです。

になること」が目標です。秋元さんの夢は、国家資格の言語聴覚士。言葉での意思疎通が難しい障害者や高齢者などに助言やリハビリを行い、このまちの福祉を支える重要な職業です。「このまちは住みやすく、離れたいと考えることは今までありません。将来は、障害があっても分け隔てなく暮らせるまちになるように、頑張りたいです」と笑顔で話してくれました。2人の今後の活躍に注目です。\*

※ 各学校を訪問する他校のALTと終日交流する取り組み。



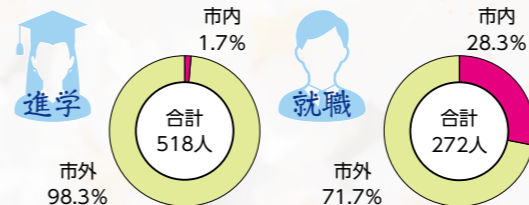
# このまちで夢を叶える

働き方や暮らし方の選択肢が広がっている今、「自分らしい生き方」を模索している人は多いのではないのでしょうか。そんな中、「生まれ育ったこのまちが好き」と、地元での生活を選ぶ人もたくさんいます。

今回の特集では、那須塩原で叶えたい夢を持つ高校生や、地元で働くことを選び、日々奮闘している先輩たちを紹介します。

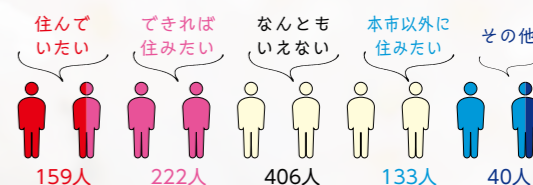


市内で学んだ高校生の進路  
(令和元年度卒業生)



資料提供：黒磯高校、黒磯南高校、那須拓陽高校、那須清峰高校

高校生アンケート  
10年後、本市に住んでいたい？



出典：那須塩原駅周辺まちづくりビジョン策定に係る高校生アンケート調査(令和2年10月)

このまちから羽ばたく  
若者の未来

このまちで生まれ育った子どもは多くは、高校卒業をきっかけに「地元に残るか、地元を離れるか」という大きな選択に直面します。昨春に市内の高校を卒業した生徒は816人。そのうち、まちの外に巣立った生徒は704人と、卒業生全体の約9割に及びます。進路別に見ると、「進学する人のほとんど」「職する人の約7割」が地元を離れることを選びました。この数字を目にして、「このまちから若者がいなくなってしまう」と不安を感じる人もいるのではないのでしょうか。しかし、若い世代の中には、このまちに愛着を持ち、一度地元を離れたとしても、将来は戻ってきたいと考える人も多くいるのです。実際に、市内の高校生を対象としたアンケート調査では、960人の回答者のうち、約4割が「10年後も本市に(できれば)住みたい」と回答しました。なかには「このまちで頑張りたい」「地元で自分の力を発揮したい」と、在学中から積極的に活動している生徒たちも。このまちの未来を切り開いていくのは、こうした若者の力なのかもしれません。

